

ライフステージごとの支援 乳・幼児期（出生後から小学校入学まで）

基本的な考え方

リハビリが必要と判断された後、出来る限り早い段階から介入を行います。さらに、ご家族でも出来るプログラムを立案してご家庭でも取り組むことで、周囲への関心や活動性を高め、少しずつ自分で出来る姿勢や動作を増やしていきます。また、通園施設等の利用や就学に向けて、それぞれの場所で児の必要としていることについて情報を共有するなどの連携を図ります。そして、必要に応じて車椅子やバギー、座位保持装置など補装具の作製についてご家族と一緒に考えていきます。

乳児期(出生後～2歳)

心や身体、運動などの発育・発達が著しい時期です。

指しゃぶりなどを通して自分の身体を認識すると共に、精神面が発達することで周囲への関心も高まります。また様々な姿勢や動作を経験させることで運動面の発達も促されます。理学療法ではこれらを踏まえ「この絵本を見たいから座ってしよう」「あのオモチャのあるところまで行ってみよう」といった遊びの中でお座りや寝返り動作、四つ這いの獲得を目指していきます。そして、徐々に体幹や上下肢の筋力をつけて立位や歩行などの獲得も目指していきます。また、お子様の状況に応じて関節可動域運動や筋緊張が緩和できるようなストレッチ、呼吸介助等を行い、動きやすい体づくりをご家族とともに目指していきます。

幼児期(3歳～6歳)

生活の中で1人で出来ることが増え、外出機会の増加や就園など社会とふれあうことが増えてくる時期です。

この時期は、就園に向けて環境が大きく変わる時期でもあるため、乳児期で獲得した姿勢や運動機能をベースに階段昇降や坂道を歩くなど、より高いレベルの姿勢や動作の獲得を目指していきます。また「座りながら絵を描いてみたい」「車椅子を使って移動したい」といったご希望に応じたプログラムの立案や補装具作製についての助言も行っていきます。就園後もお友達や大人との交流などを通してより一層身体機能面や精神面の発達が促すことができるよう、ご家族や通園施設との情報共有を行い有益な関わりを築いていきます。また、就学に向けても周囲の環境調整など必要な支援について関係者とも検討していきます。